



園だより かけはし

キッドワールドこども園

令和8年4月1日

ご入園・ご進級おめでとうございます。令和8年度は、21名の新入園児を迎え園児207名、職員52名で新しい1年がスタートしました。

今年度は、「時間」「空間」「仲間」、三つの『間』を意識した保育を行っていきます。まず、「時間」では、子どもが思いきり遊び込めるような時間を作っていきます。次に、空間では、保育環境を整えることや、園外活動の充実などを計画していきます。最後に、「仲間」では、自分の思いを相手に伝えたり、相手の気持ちに寄り添ったりしていけるような関係作りを行っていきたいと思います。

はじめてこども園で過ごすお子さんやサード保育園から進級してきたお子さんなど、期待と不安で胸がいっぱいかと思いますが、子どもたちが楽しく園に通えるよう、一人一人との関りを多く持ち、安心して過ごせる園づくりを目指してまいります。

一年間ご支援、ご協力くださいますようお願いいたします。



行事予定

日	曜日	園児に関すること
1	水	進級式
2	木	身体計測(5歳児)
3	金	身体計測(4歳児)
7	火	身体計測(3歳児)
8	水	身体計測(2歳児めろんぐみ)
9	木	身体計測(2歳児ぶどうぐみ)
14	火	身体計測(1歳児Aクラス)
15	水	身体計測(1歳児Bクラス)
16	木	健康診断
22	水	弁当日
23	木	身体計測(0歳児)
24	金	誕生会
28	火	避難訓練

新人職員について



(保育教諭)
しおな まゆ
塩穴 舞夕



(栄養士)
ひろせ みく
廣瀬 未来



(栄養士)
たかせ りか
高倉 利佳

お知らせ・お願い

- ※ 令和8年度年間行事予定は、ルクミーでお知らせさせていただきます。日時の決まっている行事につきましては、年間行事予定に入れていますので、ご確認をお願いいたします。また、場合によっては変更することもありますのでよろしくお願いいたします。
- ※ 4月の弁当日は、22日(水)です。子どもさんが楽しみにしています。忘れないようお持ちください。

令和8年度のキッドワールドこども園について

全職員が園の基本理念でもある「和顔愛語」で、園児一人一人に対し、あたたかな表情で関り、愛情深い言葉で接し、元気で思いやりのある人間性豊かな子どもを育てていきたいと思っております。

さて、令和8年度の取り組みについて保護者の皆様にお伝えさせていただきます。

保護者の皆様には、ご協力をお願いすることがあるかと思っておりますがどうぞよろしくお願いいたします。

1. 安心して子どもを預けることのできる園づくり

- 全職員を対象として、子どもに対しての接し方や声かけの仕方についての園内研修を実施し、職員の資質向上に努めていきます。
- 生産者の顔がわかる食品を目指し、子どもたちに安全な給食の提供を目指してまいります。

2. 子どもが遊びこめるような環境づくり

子どもの興味が湧くような教材選びや環境を整えていき、施設内の環境を整え、教え込む教育ではなく子どもの自発性を大切にしていけるようにしていきます。

3. 保育実践での学びの向上

行事や日々の保育活動における振り返りを通じて、PDCA サイクルを行っていくことで、資質向上に努めていくようにしていきます。

4. 食育を通じた活動の充実

年齢ごとに栽培計画を立て、栄養士と連携をとりながら、自分たちで育て、食べる“地産地消”の経験を通して、食に関する様々な体験活動を行えるようにしていきます。

5. 健康で安全な園のアピール

毎朝、看護師が保育室を巡回することにより、子どもの健康状態を把握してまいります。また、冬場では、感染症対策として定期的な空気の入替えや手洗い・うがいを丁寧に行う習慣が身につくようにしていきます。さらに、感染症が流行した際には、保護者の方にルクミー配信でお知らせしてまいります。

6. 避難時における対応

毎月行われる避難訓練では、大地震・大津波などの様々なシチュエーションを想定した避難訓練を行い、状況に合わせた避難ができるようにしていきます。また、職員の資質向上として、不審者対応訓練やAED講習も行ってまいります。

7. 保護者との信頼関係作り

保護者面談を行い、園での様子を伝えていくことや、家庭での様子や育児についての悩みを聞くことで、園生活における情報の共有を図ります。また、5歳児の保護者に対し、就学に向けての懇談会を開き、不安に感じていることや気になることへの思いを受け止め安心できるような情報を伝えるようにします。

学期の終わりや行事の後にはアンケートを実施することや、意見箱を設置することで園の問題点や意見交換などを行ない良好な関係を築けるように努力します。



キッドワールドこども園総合園長 牧野 桂一

子どもを取り巻く近年の環境の中で、私たちは多忙化という大きな時代の流れの中にあり、日常生活の中で精神的なゆとりを失いがちになっています。そのため、子ども一人一人とゆっくり向き合い、丁寧に関わることが難しくなっています。その結果、本来子どもが持っている素晴らしい素質や可能性に気づかないまま、関心や感動が薄れ、子どもと共に育ち合う喜びを見失ってしまう傾向も見られます。

このような中で大切にしたいのが、「子どもに対する驚き」と「関心」です。

子どものしていることに「すごいね」「そんなこと考えたの?」と驚きをもって関わることは、子どもの成長を大きく促します。

大人が子どもの成長や行動に驚きを示すことで、子どもは生活や活動への意欲を高め、自主性や主体性、やる気を育てていきます。そして、生き生きとした姿を見せるようになります。

また、自分の発見や成長に対して大人が関心を持ち、驚いてくれることで、子どもは「大切にされている」と感じます。そこから「自己肯定感」や「自己有能感」が育ち、「もっとやってみたい」「もっと喜ばせたい」という気持ちが芽生え、次の挑戦へとつながっていきます。そのため、昨日できなかったことが今日できるようになったなど、小さな変化に気づき、その場で驚きを言葉にして伝えることがとても大切です。

子どもは本来、探究や冒険が大好きで、知らないことに対して強い知的好奇心を持っています。大人が驚きをもって関わることで、その好奇心はさらに高まり、「知りたい」「やってみたい」という気持ちが広がっていきます。

また、子どもが何かに夢中になっている時や、不思議な行動をしている時に、「わあ、すごいね」と受け止めることは、子どもの成長にとって非常に大きな意味があります。活動を制限するのではなく、集中できる環境を整えることで、子どもの力はより引き出されていきます。大人が本気で驚くことで、子どもは「自分の行動には価値がある」と感じ、自信を持つようになります。そして、「次はどうなるかな」と探究心がさらに高まっていきます。

さらに、このような関わりは親子の信頼関係を深めることにもつながります。同じものを見て一緒に驚き、感動する経験は、「自分は受け入れられている」という安心感を育て、心の土台をつくっていきます。

ここで、「驚き」が子どもの成長にとって大切な理由を整理してみます。まず一つ目は、

「自己肯定感」と「有能感」を育てることです。大人の驚きは、子どもにとって自分の力を映し出す鏡のような役割を果たします。二つ目は、同じものに目を向けて共に感じる「共同注意」を育て、信頼関係や愛着形成の基盤になることです。三つ目は、子どもの独特な感性や発達の段階に気づききっかけになることです。



そして最後に、大人自身の心にも良い影響を与え、子どもとの関わりをより豊かなものにしてくれます。

このように、子どもへの「驚き」を大切にするためには、

- ・日々の小さな変化に目を向けること
- ・他の子どもと比べず、その子自身の成長を認めること
- ・子どもの疑問に寄り添い、一緒に考えること
- ・大人自身も好奇心を持ち、学びを楽しむこと

が大切です。

忙しい毎日の中でも、子どもとの新鮮な出会いを大切にしながら関わっていききたいものです。

なお、今回も紙面の都合によりすべてを紹介することができませんでした。次回は、

- ⑫子どものしていることに驚きを持つ
 - ⑬あるがままの姿を受け入れる
 - ⑭明るくほほえみの多い保護者になる
 - ⑮ユーモアに富んだ保護者になる
 - ⑯子どもの名前をたくさん呼んであげる
 - ⑰人として美しい親になる
- といった内容についてご紹介していきます。



<エッセイについて>

今回のエッセイで、特に印象に残っていることは、「子どもに対する驚き」と「関心」です。まず、育児をしている大人自身の心も満たされていなければ子どもにも目が向かないのではないかと思います。「育児は大変」という思いから「育児は楽しい」という思いに気持ちが変われば、子育ても変わってくるのではないかと思います。子どもを沢山褒めて声かけをすることや抱きしめることの前に、まず「自分は、育児をよくやっている」と褒めるところから始めてはどうでしょうか。また、育児に困った時は、一人で悩まず周りの人の意見や職員に相談することで「育児は大変」から「育児は楽しい」という気持ちに少しでも変わっていくのではないのでしょうか。

